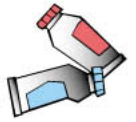




児童生徒地図作品展



作品づくりを通して、地図に興味や関心を持ち、生活の中で使いこなす力を高めることを願って始まった児童生徒地図作品展は、今年度で11回目を迎えました。今回は、県内の小・中・高等学校から294点の応募があり、力作揃いの作品の中から15点の入賞作品、45点の入選作品が決定しました。

子どもたちの地図作品の魅力

(1) 自分の生活の中から見つけ出されたテーマ

学校や各家庭生活の中で、疑問に思ったことや、発見したこと、もっと考えてみたいこと等が、テーマとなっています。子どもたち一人一人の、「～についてもっと詳しく調べたい!」「発見したことを地図に表現したい!」「みんなに知らせたい!」という気持ちが、素直に作品に表れています。



「眠らない街～延びる営業時間～」
各務原市立蘇原第一小学校 6年 長尾 綾子



「小熊町 通学路の花の地図」
羽島市立小熊小学校 3年 神田 萌絵



「調べてびっくり中濃用水」
岐阜市立三輪南小学校 4年 小西はなの

(2) 創造的な地図づくり

子どもたちが、つくり出した地図は、どれも世界でたった一つのかげがえのない地図です。またその子だからこそ、つくり上げることができた地図です。

地図への取り組み方は、子どもたち一人一人、様々です。資料の収集の仕方や地図表現の工夫、地図づくりを通して得た気付きなどをまとめた地図は、見る人の心をひきつけます。

パソコンやカメラやコピー機などを子どもたちが楽に操作できる時代です。しかし、収集した資料を自分の手で絵や文に表現したり、調査や観察したことを自分なりに分析したりすることは、創造的な地図づくりには不可欠です。



「自然災害に強い国づくり」
岐阜大学教育学部附属中学校 1年 内海 大成